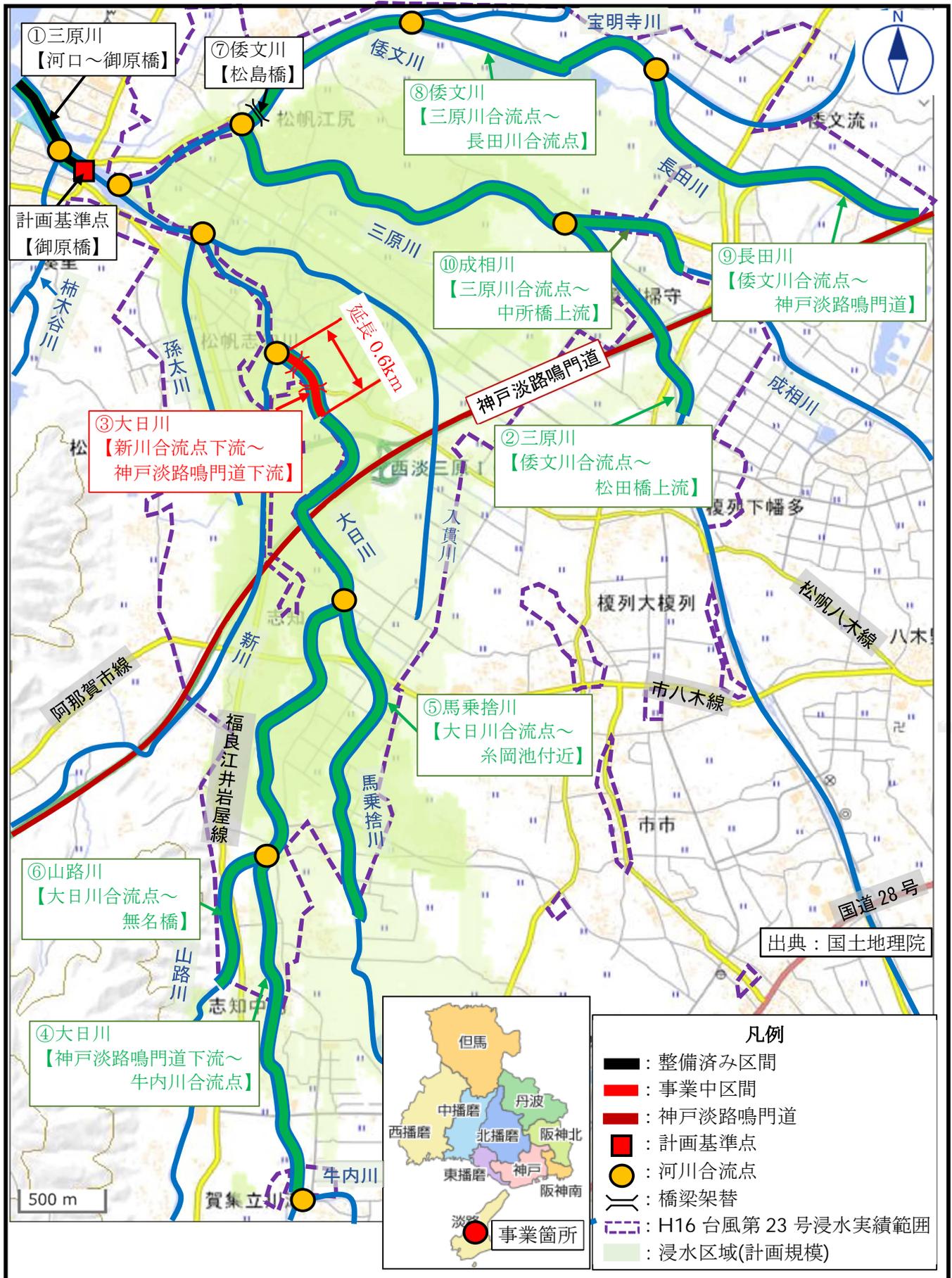


令和7年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第1回〕）

部課室名	土木部 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 福永 悦男 (河川・武庫川整備班班長 寺田 悟)	内線	4408 (4437)
事業種目	河川事業	水系名	三原川水系		
事業目的					
三原川水系において、平成22(2010)年3月に策定した河川整備計画に基づき、河川断面を拡大することにより、治水安全度を向上させ、地域の安心・安全を確保する。					
三原川水系河川整備計画における「計画的に整備を進める区間」					
本川					
	区間	延長	整備目標	事業の状況	前回評価年度
①	三原川[下流工区] 河口～御原橋	0.9km	昭和54年台風第16号規模の洪水を安全に流下	S60(1985) 完了	—
②	三原川[上流工区] 倭文川合流点 ～松田橋上流	3.4km		未着手	—
支川					
	区間	延長	整備目標	事業の状況	前回評価年度
③	大日川[松帆志知川工区] 新川合流点下流 ～神戸淡路鳴門道下流	0.6km	昭和54年台風第16号規模の洪水を安全に流下	事業中	R2(2020) 新規評価
④	大日川[上流工区] 神戸淡路鳴門道下流 ～牛内川合流点	4.9km		未着手	—
⑤	馬乗捨川 大日川合流点 ～糸岡池付近	1.8km	昭和54年台風第16号規模の洪水を安全に流下	未着手	—
⑥	山路川 大日川合流点～無名橋	0.8km	昭和54年台風第16号規模の洪水を安全に流下	未着手	—
⑦	倭文川 松島橋	—	昭和54年台風第16号規模の洪水を安全に流下	H29(2017) 完了	—
⑧	倭文川 三原川合流点 ～長田川合流点	2.6km	昭和54年台風第16号規模の洪水を安全に流下	未着手	—
⑨	長田川 倭文川合流点 ～神戸淡路鳴門道	2.0km	昭和54年台風第16号規模の洪水を安全に流下	未着手	—
⑩	成相川 三原川合流点 ～中所橋上流	0.7km	昭和54年台風第16号規模の洪水を安全に流下	未着手	—

# 三原川水系三原川 河川整備計画 全体位置図

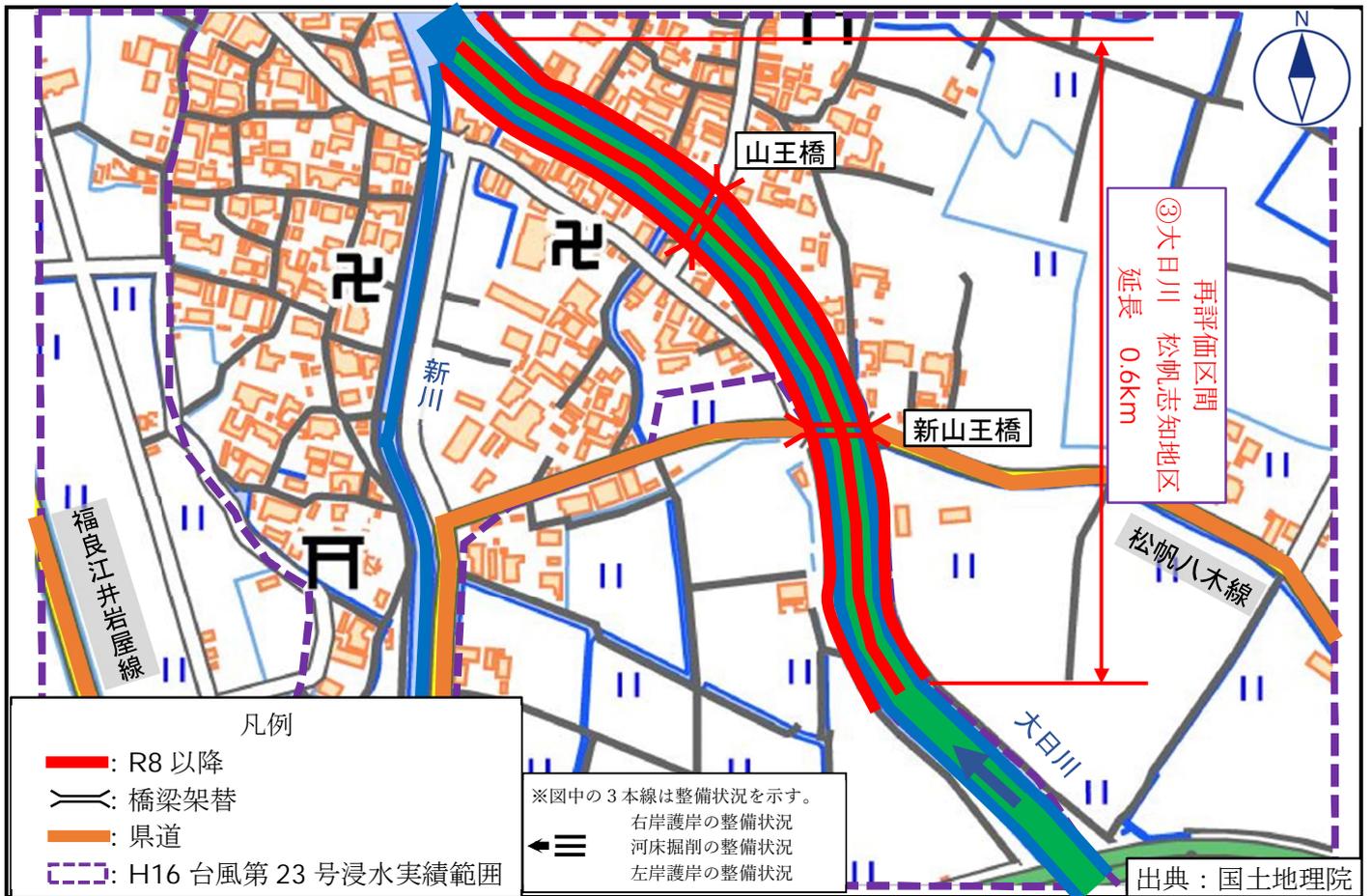


【三原川水系大日川】

工区	事業区間	整備内容		現計画	新規評価時点
③大日川 [松帆志知川工区]	新川合流点下流 ～ 神戸淡路鳴門道下流  南あわじ市 松帆志知川	河道改修 0.6km 築堤(引堤) 矢板護岸 河床掘削 橋梁架替2橋  【負担割合】 国：50% 県：50%	総事業費	78億円	34億円
			内用地補償費	17億円	9億円
			完成予定年度	令和26 (2044)年度	令和12 (2030)年度
			進捗率 (用補進捗率)	6% (18%)	0% (0%)
			残事業費	73億円	34億円

事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<p>気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する地元要望は強まっている。</p> <p>【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 下記の理由等により、事業費および事業期間を変更する。(44億円増額、14年延伸)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地土質調査の結果、護岸構造の変更及び追加が必要になったことに伴う増額</li> <li>・物件調査の結果、補償費の増額。</li> <li>・建設資材価格や労務単価の上昇に伴う増額。</li> <li>・用地買収難航に伴う延伸</li> <li>・施工計画の見直しに伴う延伸</li> </ul>				
進捗状況	[大日川(松帆志知川工区)] 設計は完了し、現在用地買収中。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (R2年度新規評価)	【審査会意見】 なし(着手妥当)	【対応方針】 —			
(1)必要性	<p>三原川水系では過去に発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生している。また、気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する要望も強い。</p> <p>【近年の主な浸水被害実績(三原川水系)】                      昭和54年 9月 台風第16号(浸水面積2700ha、床上浸水約2000戸、床下浸水3149戸)                      平成16年10月 台風第23号(浸水面積1080ha、床上浸水275戸、床下浸水652戸)                      平成21年 8月 台風第9号(床下浸水1戸)                      平成23年 9月 台風第12号(床下浸水3戸)                      平成23年 9月 台風第15号(床上浸水2戸、床下浸水25戸)                      平成26年 8月 台風第11号(床下浸水15戸)</p>				
(2)有効性 ・効率性  (事業執行環境)	<p>① 費用便益比：B/C=12.0(河川整備計画における全ての事業による費用便益比)                      ② 河川整備計画を平成22年3月に策定済み。                      ③ 昭和54年台風第16号と同程度の降雨で発生する洪水を安全に流下できる。                      ④ 平成16年台風第23号による破堤した地点(馬乗捨川合流点付近)の水位を低下させることができる。                      ⑤ 地元からの早期事業完了を求める要望がある。</p>				
(3)環境適合性	騒音・振動などに配慮するなど、周辺の生活環境への影響を最小限にとどめる。				
(4)優先性	事業区間には人家連担区域が含まれており、流下能力不足による大きな浸水被害が想定されており、優先性は高い。				
の再 結果 評価	継続	左の理由	事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、地域住民の安全安心な生活環境を確保するため、事業を継続する必要がある。		

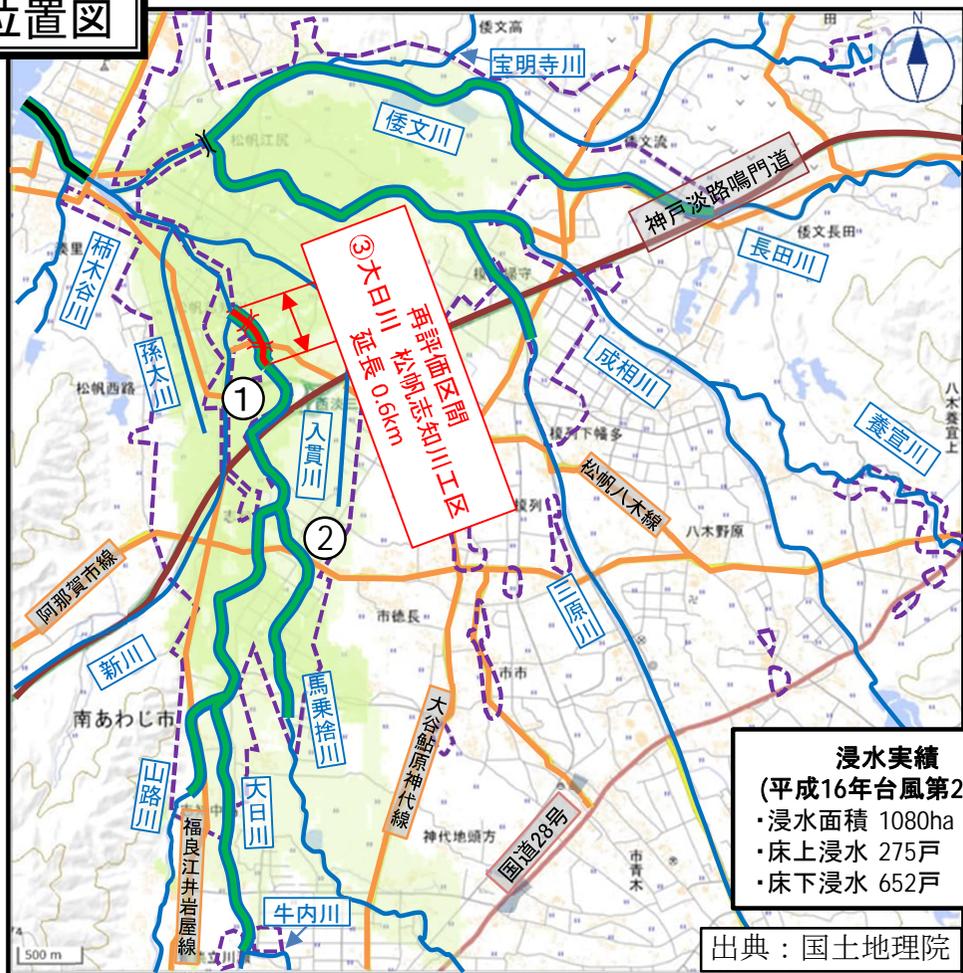
三原川水系大日川 整備概要図



工区	河川整備計画全体	前回評価から R7(2025) まで	今後 5 年間 R8(2026)～ R12(2030)	今後 19 年間 R13(2031)～ R26(2044)
③大日川 松帆志知 川地区	R3～R26 年度 【事業費＝78 億円】 ・整備延長 L=0.6 km ・整備概要：築堤(引堤) 矢板護岸 河床掘削 橋梁架替 2 橋	【事業費＝5 億円】 ・測量、設計 ・用地補償	【事業費＝14 億円】 ・用地補償	【事業費＝59 億円】 ・用地補償 ・築堤(引堤) ・矢板護岸 ・河床掘削 ・橋梁架替 2 橋  流下能力の向上

# 河川事業 二級河川三原川水系大日川

## 位置図



**浸水実績**  
(平成16年台風第23号)

- ・浸水面積 1080ha
- ・床上浸水 275戸
- ・床下浸水 652戸

出典：国土地理院

## 目的

三原川水系河川整備計画(H22.3)に基づき治水安全度を向上(昭和54年台風16号規模の洪水を安全に流下させる。)

## 事業概要

事業区間：新川合流点下流～神戸淡路鳴門道下流  
 総事業費：78億円(内用地補償費:17億円)  
 事業期間：R3(2021)～R26(2044)  
 工事内容：築堤(引堤)、矢板護岸、河床掘削、橋梁架替2橋  
 延長：0.6km  
 費用便益比B/C：12.0(河川整備計画における全ての事業による費用便益比)

## 浸水実績

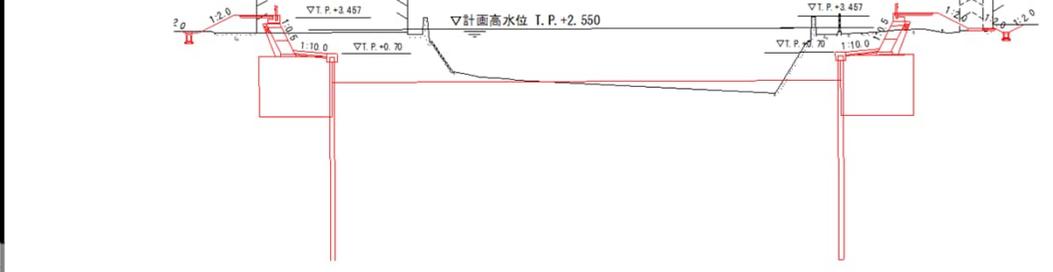
①浸水実績 (H16台風23号)



②浸水実績 (H16台風23号)

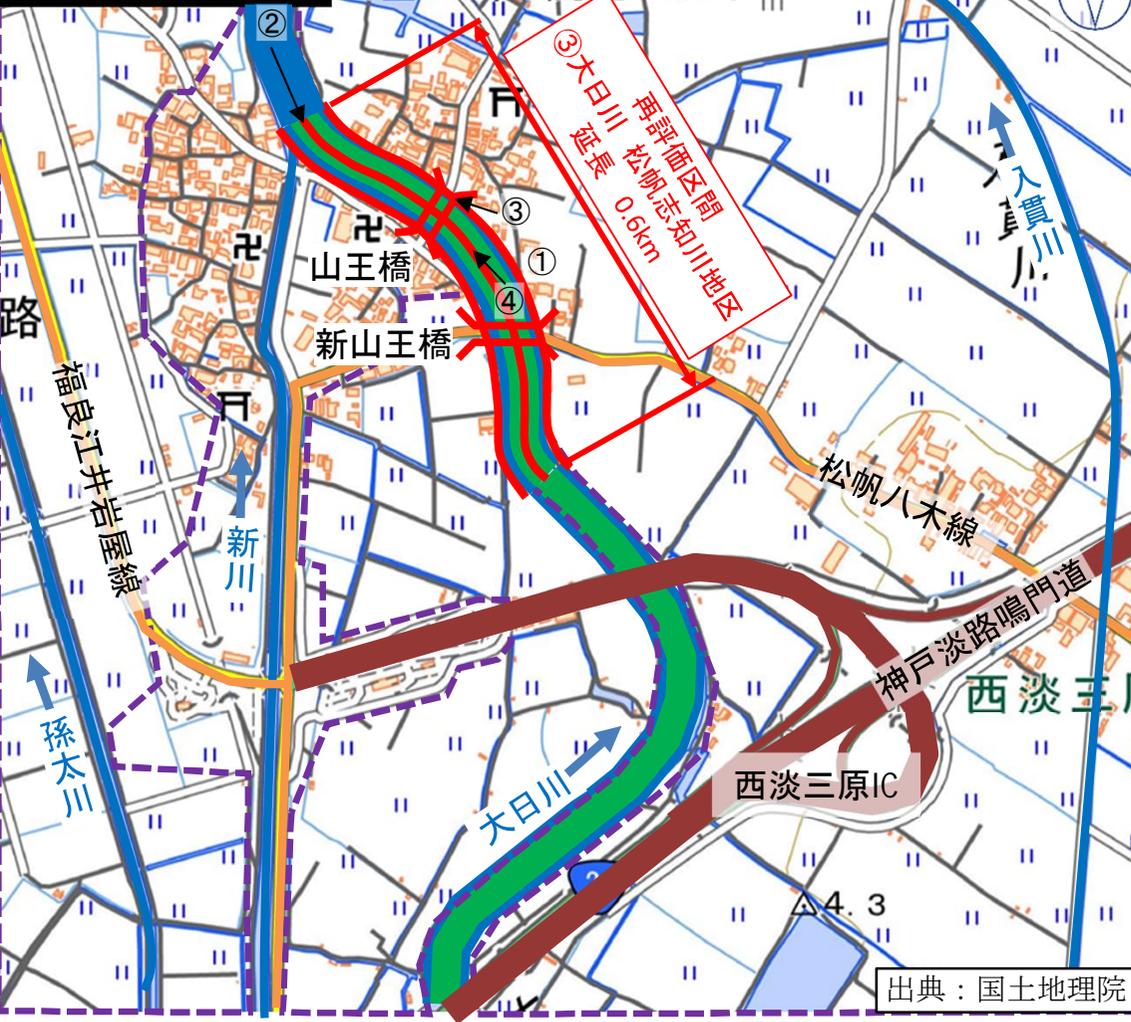


## 横断図



- 凡例
- : 再評価区間
  - ≡: 橋梁架替
  - : 神戸淡路鳴門道
  - : 国道
  - : 県道
  - : H16年台風第23号浸水実績範囲
  - : 浸水区域(計画規模)

# 事業進捗平面図



- 凡例**
- : R8以降
  - : 橋梁架替
  - : 神戸淡路鳴門道
  - : 県道
  - : H16年台風第23号浸水実績範囲

※図中の3本線は整備状況を示す。  
 右岸護岸の整備状況  
 河床掘削の整備状況  
 左岸護岸の整備状況

出典：国土地理院

# 現況写真

①事業区間(全景)



出典：国土地理院

②事業区間(全景)



③事業区間(山王橋)



④事業区間(新山王橋より下流を望む)



# 工程表

: 前回計画  
 : 実施・計画

事業内容	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26
調査設計																								
用地補償																								
護岸等																								
河道掘削																								
橋梁架替																								

# 事業の有効性・効率性

## (1) 費用対効果

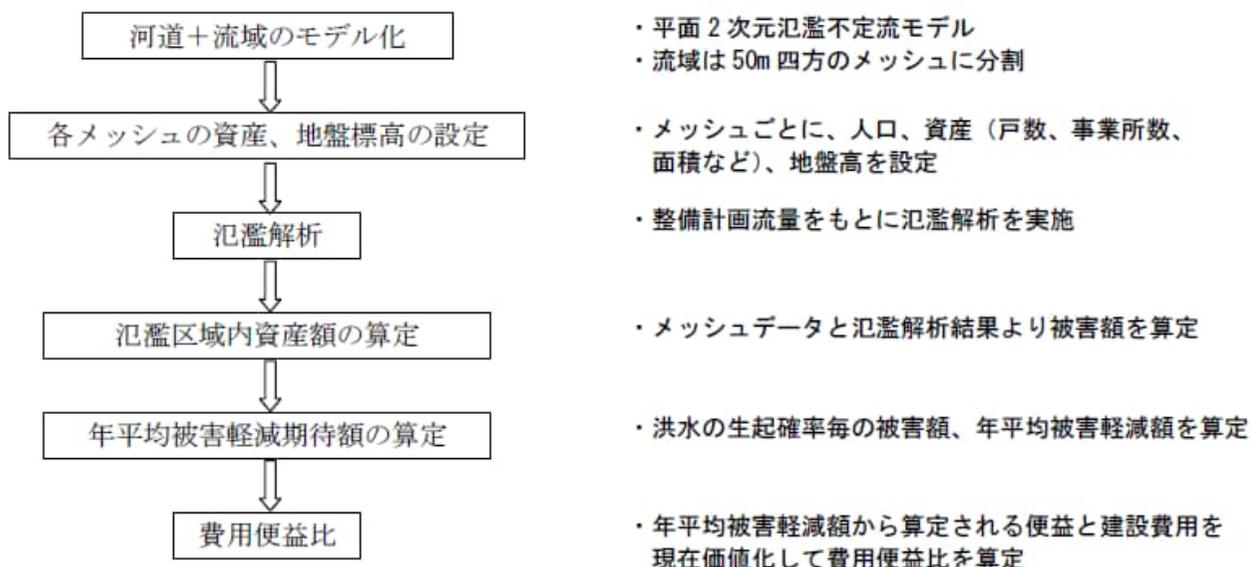
### ① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等)</li> <li>・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用</li> </ul>

1) 便益 = 「治水事業を実施することによる被害軽減期待額」を現在価値化

被害額 = 一般資産被害 + 農作物被害  
 + 公共土木施設等被害  
 + 営業停止被害 + 応急対策費用

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化



### ② 費用便益費(B/C)算出根拠

B(便益)		C(費用)			B/C
便益額	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
195,693 (百万円)	昭和54年台風16号と同規模の降雨で発生する洪水に対して ・ 浸水区域内人口2,736人の減少 ・ 浸水面積794.3haの軽減	16,302 (百万円)	14,535 (百万円)	1,767 (百万円)	12.0

※河川整備計画における全ての事業による費用便益比

## (2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減	○ ・浸水区域内人口2,736人(うち65歳以上1,018人)、災害時用援護者1,224人の軽減 ・最大孤立者2,239人(避難率0%)、1,343人(避難率40%)、448人(避難率80%)を軽減
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減	○ ・主要道路の交通途絶を解消(交通量40,029台/24時間)
	ライフラインの停止による波及被害の軽減	○ ・電力の使用不能者1,768人 ・固定電話・通信の使用不能者1,780人の軽減 ・携帯電話・通信の使用不能者585人の軽減
	水害廃棄物の発生の軽減	○ ・水害廃棄物2,882t、処理費用80.7百万円の解消

## (3) 地域からの要望状況等

要望状況等	自治会等から道路・河川の環境改善要望が毎年多数寄せられている。
-------	---------------------------------

## 参考：事業の変遷(三原川水系)

昭和54年度：激甚災害対策特別緊急対策事業により大日川において新川合流点までの改修に着手  
 昭和55年度：広域基幹河川改修事業着手(三原川・大日川・倭文川)  
 平成9年度：大日・牛内ダム完成  
 平成11年度：成相・北富士ダム完成  
 平成20年度：河川整備基本方針策定  
 平成21年度：河川整備計画策定  
 平成25年度：入貫川排水機場増強(6.6→16.8m<sup>3</sup>/s)  
 平成29年度：松島橋架替完了(倭文川)  
 平成30年度：倭文川排水機場更新着手(6.0m<sup>3</sup>/s)  
 令和4年度：孫太川排水機場稼働開始